

第 14 回 日本生殖心理学会・学術集会

発表番号 P-05

題名 患者会を開催して ～同じ体験を共有することの大切さ～

発表者

皆吉田津子¹, 山手志保¹, 茅切純子¹, 橋本知子¹, 中岡義晴¹, 森本義晴¹,
¹IVF なんばクリニック

抄録

【諸言】

流産経験のある不妊治療患者は次の妊娠や治療への焦り・不安を抱えているが、治療の事や自分の思いを表出する場が少ない。今回流産経験のある患者対象の患者会を企画。患者会開催にあたっての構造を再構築したので報告する。

【方法】

患者会名称と参加ルールの設定。

気持ちのスライドを作り、グループトークの前に情報提供の場を設けた。

患者会参加時の気持ち、参加後の気持ち の二通りのアンケートを実施。

【結果】

参加者はルールを守り穏やかな会となった。

自分の思いを話してもらうまでに時間を要した。

会話が途切れたときの対処が難しく、会話のない時間ができた。

患者会後の気持ちとしては、「自分だけじゃない」「気持ちを聞いてもらえてすっきりした」という意見があった。

【考察】

気持ちを共有し合える場を提供することは必要なケアである。今回の学びから今後の患者会開催の注意点を考察し、会の継続実施を目指す。